

# 「論文誌 C 発刊 30 周年記念」—特集によせて—

電子・情報・システム部門編修委員会副委員長

正員 宮崎 道雄\*

Keywords : 30th anniversary, Transactions C publication

## 1. 「論文誌 C」の誕生

最初に「論文誌 C」の誕生から現在までの歴史を紐解いてみる。会誌に掲載されていた資料・論文を「電気学会論文集」として会誌と分離して初めて出版されたのは、昭和15年1月である。しかしこの論文集は、戦時下の用紙事情の悪化で昭和19年12月をもって廃刊された。戦後間もない昭和24年に「電気工学論文集」として復刊された。

この論文集も昭和28年に会誌の増ページで論文掲載のスペースが確保されたので再び廃刊されたが、その後会員の強い要望により、昭和47年1月号から「電気学会論文誌」の会誌から分離発行が実施された。このとき「論文誌 C」(エレクトロニクス、情報工学、システム分野)が誕生した。

しかし、その後「論文誌 C」への論文投稿は少なくなり毎月3~4件の論文しか掲載できなくなった。このため、電子・情報・システム部門を設立し、この分野の活性化と会員増加を達成することを目指した電子・情報・システム部門特別委員会(委員長:家田正之教授,副委員長:秋月影雄教授)の下,部門の活動方針の骨子が作られ(部門誌の発行,部門調査研究活動,部門全国大会など),現在までその組織と精神が引き継がれている。このとき「論文誌 C」を電子・情報・システム部門(C部門)の「部門誌」として継承することになった。

その第1号は、昭和62年1月号として発刊された。部門制にしてから論文投稿数の増加は目覚しく、現在では毎月25件程度の論文が掲載され、この分野の重要な情報発信源としての地位を確立してきている。

## 2. 特集号について

C部門では「論文誌 C 発刊30周年」を記念して、随想記事と記念論文を募集した。随想記事は、将来への科学技術への夢、提言または皆様の日頃お考えになっていることを随想としてまとめていただくことにした。記念論文の内容は、電子・情報・システム部門に属するものなら何でも

構わないこととした。その結果、3編の随想、および12編の記念論文を編さんすることが出来た。ご覧のように多岐にわたっており興味深い内容となっている。

これらの論文に対して、最優秀論文1件、優秀論文2件を選考し、平成15年8月29~30日に秋田大学で開催されるC部門大会で表彰することになっている。

なお、ご投稿頂きながら査読の終了が本特集号に間に合わなかった著者の方々に、C部門編修委員会委員の一人としてこの紙面をお借りしてお詫び申し上げます。

## 3. 今後の「論文誌 C」

全国の国公立大には、今年度から世界最高水準の研究教育拠点作りを競い合う「21世紀COEプログラム」や来年度行われようとしている情報分野へのトップ100である「特色ある大学教育支援プログラム」などによって選抜、序列化の波が押し寄せている。

学会もこのような社会の動きと無関係ではいられない。論文誌は、平成14年度中にSCI登録申請する予定であり、平成16年4月から論文誌の電子ジャーナル化が実施される。また、電気情報系5学会(電気学会、電子情報通信学会、情報処理学会、照明学会、映像情報メディア学会)での傘学会構成の検討が開始されようとしている。

折しも節目の30周年に「電子・情報・システム部門誌」として更なる発展を祝うかのように、平成15年1月号から「論文誌 C」の表紙デザインが新しいものに変わることになった。また、英語表示もSCI登録へ向けて、IEEE Transactions on Electronics, Information and Systems となった。

本特集号が、次の栄光の30年へ向けての第一歩となれば幸いである。

## 文 献

- (1) 家田正之:「電子・情報・システム部門誌の発刊にあたって」, 電学論 C, 107, 1, p.1 (昭和62-1)
- (2) 秋月影雄:「電子・情報・システム部門誌の編集について」, 電学論 C, 107, 1, pp.3~5 (昭和62-1)

\* 関東学院大学工学部電気・電子工学科  
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東 1-50-1  
Kanto Gakuin University,  
1-50-1 Mutsuurahigashi, Kanazawaku, Yokohama 236-8501